

C-51 本学々生の日常着のデザインに関する考察（オ2報）ブラウスについて
梅花短大 ○川端澄子 森善久江 山本直成

目的 オ1報のスカートに続き，日常動作に適応するゆとり量を持ち，しかも美的なブラウスのデザインについて考察した。

方法 (1) アンケート調査（学生のブラウス着用，購入状態について） (2) 日常動作による各部の変化量の測定（メジャーによる） (3) 着用実験 ①上身頃原型のゆとり量と着心地との関係について（袖有り，袖無し） ②上身頃のゆとり量として背中に0～10cm，胸中に0～6cmのタック代を入れたもの，および袖口寸法のゆとり量を0～10cm入れたものをトワールで製作し，剣拳，前拳，内転，外転，前屈身の動作を行なったときの運動量との関係について着用実験した。

結果 学生の手持ちブラウスは織布製が多く，よく着用するのはニット製で，活動的であるために好まれている。袖有りブラウスは，活動的であるためには，かなりのゆとり量が必要であって，背中に9cm（左右に4.5cmずつ），胸中に5cm（左右に2.5cmずつ）のタック代を入れたものが日常着として，もっとも良い事が分った。この分量をタック，ギャザー，プリーツなどの手法で，いわゆるデザインとして入れるのが良い。袖口のゆとり量は，多くするほど動きやすくなるが，むしろ袖中にゆとり量を入れる方が適切で，袖山を低くするか，フレアー・スリーブにするなどの方が良い。人体にフィットしたデザインの場合は，当然，伸縮性のある布を持ちいる必要がある。